

教員支援のためのアセスメント・ツールの開発 2

— 感覚の活用、感覚処理の困難に焦点をあてた観察項目の作成 —

企画者	山口真佐子	(桜美林大学健康福祉学群)
司会者	山口真佐子	(桜美林大学健康福祉学群)
話題提供者	林田 宏一	(一般社団法人あかつき心理・教育相談室)
	三崎 恵美	(八王子市立浅川小学校)
	佐藤 玲子	(明星大学教育学部)
	山口真佐子	(桜美林大学健康福祉学群)
指定討論者	篠崎 友誉	(東京都立水元小合学園)
KEY WORDS	感覚処理の困難	不適応行動 観察項目

【企画趣旨】

近年、多くの研究者によって、発達障害児の適応上の困難は、環境からの情報を取り入れ、処理するプロセスの問題から発生するといわれている。通常教室において、不適応行動の背景にある困難の把握は指導の要である（佐藤、林田、山口）。教師の教室における観察の観点として自立活動を客観的指標にしたいと考え、特別支援学校学習指導要領「自立活動『環境の把握』」と感覚刺激の処理や認知機能の様相を評価する既存のアセスメントとの関係に着目し、観察項目を作成した。その成果の一部は、明星大学研究紀要第 11 号に掲載の機会を得、観察項目の信頼性および妥当性についてさらに検討を進めている。現在の到達度をここに報告し、参会の皆様のご意見をいただきたい。

【話題提供 1】

判断基準となり得る指標と支援方針の必要

問題 1. 通級指導開始の判断は教師の気づきによって検討される。しかし、担任が気になる子供の様子を保護者に伝えると、教師の主観、価値観で、わが子を教室から排除しようとしていると受け止められてしまいがちである。教室における支援について説明できる専門性が必要である。

問題 2. 通級指導の効果を高めるためには、教室担当者と学級担任の連携が重要であるが、指導内容を共有する時間を持ちにくいのが現状である。子供の状態を共有し、支援につなげることでできる客観的評価が教室でできるとよいと考える。

【話題提供 2】

自立活動の項目を評価基準にする

自立活動「環境の把握」の 4 項目「(1) 保有する感覚の活用」「(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること」「(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること」「(5) 認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関すること」の 4 つの項目の内容を、既存のアセスメントを構成している指標（WISC-IV の 4 つの指標、SP 3 つの分類）が測定しようとする能力にあてはめて類型化した。作成した自立活動「環境の把握」を観点とする観察項目は、学習場面で表れやすい行動 26 項目と生活場面で表れやすい行動 17 項目合わせて 43 項目の行動を 3 件法で評価する。因子は自立活動「環境の把握」の上記 4 つの項目とし (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関することについては、その内容が各種の補助機器等による代行手段を示したものであるため除外した。4 つの項目ごとに集計し、教室という特定の限られた環境の中で、どのように感覚を活用しているか、感覚や認知の偏りの状態や情報処理の特徴、感覚器官から収集した情報を手がかりにした判

断、行動の様子、時間、空間など概念の形成の状況を類型ごとに偏りや特性の傾向を把握する。学習者の行動観察から感覚刺激の処理能力を評価する SP、言語に関連する能力、事物を視覚で認識し操作する能力、聴覚からの情報を保持、処理する能力などを測定する知能検査 WISC-IV の結果と観察項目の合計値の関係を比較した。

手順① WISC-IV との関係を見るための資料収集

作成した観察項目を A 小学校の通級指導教室複数の利用者に実施し、基軸となる 4 項目類型ごとの合計値と WISC-IV の 4 つの指標の得点の関係について検討した。

手順② 信頼性の検討のための資料収集

都内 A 小学校 1 名の児童を 5 名の教師で観察し、自立活動の観察項目のチェック数、合計値の差異から評価者間の一致度を検討した。

今回の一連の手順と結果、今後の課題について報告する。

【話題提供 3】

作成した観察項目は、学習者の問題を提示するだけでなく、指導における指標となるようにしたい。教科指導では、学習の前提となる感覚処理の問題、語彙の理解や構文など情報処理過程の問題に対応した支援が重要である。観察項目から学習者の困難に接近するとともに、困難に対応した授業アプローチについて皆様のご意見をいただきたい。

【指定討論の趣旨】

特別な教育支援のニーズがある学習者への支援は、的確な実態把握なしには困難である。誰にもわかりやすい教科指導、温かな学級づくりの支援に具体的につなげるために、教師が、難解な自立活動の内容の理解を深めることが重要であると考え。その必要性が広く学校に認知され、学級担任による自立活動の実践が授業方法に具体的に反映されることを望む。

（文献）

平成 29 年度改訂 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）、Winnie Dunn（日本版）萩原拓、岩永竜一郎、伊藤大幸、谷伊織（2015）『日本版感覚プロファイル S P』日本文化科学社。「自閉症スペクトラムの子どもの感覚・運動の問題への対処法」岩永竜一郎（2014）

『これからの発達障害のアセスメント—支援の一步となるために—』第 1 章、第 5 章 黒田美保編著（2014）金子書房 ※本研究は、科学研究費（基礎研究（C））課題番号 19K00861 に基づくものである。

YAMAGUCHI Masako, HAYASHIDA Koichi, SATO Reiko
MISAKI Emi